

神奈川県山梨教会連合会たより

かりん

【特別寄稿】

「川込トミエ先生を偲んで」

甲府教会 牧野真幸

六月七日夜、金光教大明教会在籍教師、教会長夫人川込トミエ先生が帰幽された。山梨で実質二つしかない教会で、私が本場に頼りにし、敬慕してやまないトミエ先生がお亡くなりになるなんて信じられないことだった。今年一月、直腸に癌が発見され、すでにリンパの方にも転移していると聞き、きした時も、トミエ先生に限っては絶対に大丈夫と信じていた。

その理由は、前から先生が「来年は、大明教会の布教八十年、教会長先生卒寿、私が米寿、そして結婚五十年という有り難い節年なので、神様にお礼のお祭りをさせて頂きたい」とおっしゃっていたこと。また、先生は若い頃より幾度となく無い命を神様から助けて頂いて来られた方であること。

二十代で結核を患い、何年も病院で療養生活を送られた時も、「病院で死んだら、父

母が悲しむ。教会で死んだのなら、神様の元に帰ったのだからと親は安心してくれるだろう」と思われて、双岩教会に修行生として入られ、その病身のお身体で厳しい修行に耐え抜かれ、すっかりお元気になられたということである。親先生のお伴でご本部に月参する折々、三代金光様のお宅にもご挨拶に上がられると、キクヨ姫様がトミエ先生によく「辛抱しんせいよう」とお言葉をかけて下さったそう。学院を卒業して金光教教師にお取り立て頂いた時には「いい先生になんせいよう」とお励まし下さり、先生はこの二つのお言葉を胸に、知る人もない遠い山梨の教会に嫁いで来られたのである。

さらに三十年ほど前には大腸癌で、もはやこれまでという時、親先生にお取次頂き、神様にこれまでのご無礼お粗末を心からお詫びされると、俄かに便意を催され、トイレに駆け込んだところ、血肉の腐ったものがどつと大量に下って、それ以来すっかりお元気になられたということもありだった。ここ数年は、ご長男を亡くされるなど、難儀なことが続き、お辛くないはずはないだろうに、決して暗い顔はなされず、いつも温かく私たちを力づけて下さった。

今年一月、すでに直腸癌と診断されたお身体でご本部参拝を願われ、光貴先生が運転され、私がお伴してご本部まで参拝させて頂いた時も、いたってお元気で長い道中

お疲れも見せず、帰路には親教会である四国の双岩教会にまでも足を延ばしてお参りされた。今思うと一生のお礼とお別れのご参拝だったのだろう。

先生は、神様から頂いた身体は神様から治して頂こうと決心されて、一切の治療、薬を絶って、すべてを神様にお任せになられ、お亡くなりになる二日前まで朝のご祈念をお仕えになり、教会長のお世話を心を込めて尽くされるなど、真に金光教の信心をもつて現わされた方だった。

もうあの温顔に接することも、先生のお話もお聞きできないと思うと、淋しくてならないが、教祖様の「体があるうちは自由にならぬが、身体がのうなったら願うところに行つて人々を助けてやる」とのお言葉のように、これからは御霊の神様となられて八十年祭をお仕えになり、教会をお守り下さると信じている。心からご冥福をお祈り申し上げます。

○本号では予定を変更して、先月ご帰幽になられました川込トミエ先生の追悼文を掲載させて頂きました。

先生の生前のご功績を偲び、ここに心より御霊の立ち行きをお祈り申し上げます。



毎年5月10日、上大岡の神奈川県戦没者慰霊堂において県戦没者追悼奉賛行事が執り行われ、神奈川県宗教連盟による修祓、祝詞奏上、玉串奉奠、聖書朗読、読経の祭儀の中で、本年は金光教によって祝詞奏上と玉串奉奠が仕えられた。

この慰霊堂は、明治以降の戦争における戦没者、戦災死者を追悼するとともに、平和の象徴として建設され、戦没者・戦災死者五万八千余名の名簿が納められている。県戦没者追悼奉賛行事は、慰霊堂奉賛会の主催、神奈川県及び県遺族会の後援により執り行われ、献花の儀、献茶の儀、幼稚園児の歌、祭儀、最後に追悼式の次第で進められる。

宗教連盟の祭儀は、3年前までは、神道、キリスト教、仏教による祭儀であったが、他の宗教連盟加盟宗派より執行の要望があり、一昨年、昨年は天理教により仕えられた。今年2月の理事会の席上、「本年は、金光教が神奈川県に布教を始めて百二十年の節年を迎えるところから、祭儀を是非、金光教でさせていただきます」とお願いし、承認された。慰霊堂に隣接する千手院で更衣をさせて頂いた。例年は私一人で神道の後ろについ

神奈川県戦没者慰霊祭に参列して

福田光一



参向前の一枚。
この後、祭典中にはヒョウまで降ってくる天気となりました。

て行けばよかったが、今年はそれとは異なり緊張を覚えた。県知事はじめ各市町村首長、国会議員、県会議員、市会議員など来賓五〇〇名及び一〇〇〇名の遺族参列のものと行事は進み、祭儀の中では、神道の次に金光教の順が来て祭員一同、戦没者・戦災死者に思いを馳せ、「世界平和と人類の助かり」を祈りつつ、祭主・福田光一、典礼（先唱役）・南清孝、祭詞後取・村田光治、玉串後取・須賀院崇徳の金光教神奈川県山梨教会連合会の各師により厳かに仕えられた。無事終了し、更衣を済ませ、写真を撮ってもらった神奈川県神社庁のメンバーと話をすると、当日の神道の祓主は、私の大学の同級生で大山阿夫利神社宮司の目黒仁氏であることが分かり、旧交を温めることができた。

金光教の布教、名広めのお役に立つことができ、旧友と会うこともでき、ありがたい一日であった。

かりんの輪 「病と闘う」

小田原教会 安田一美

61歳の誕生日が過ぎた頃、年齢を考えて子宮筋腫の検査を受けました。結果を聞きに行こうと思いつきながら、時が過ぎてしまいました。翌年、胃痛で病院へ行くと「前回受けた検査の結果が良くないので、もう一回検査しましょう」と言われ、結果は「癌の疑いがあります」「紹介状を書きますので、日赤へ行ってください」ということでした。日赤で検査を受けたところ、結果は「手術は覚悟してください」と宣告され、すごいショックを受けました。癌で手術した友人に相談すると「大きな病院の方がいいのでは」と言われ、東海大病院で診て頂きました。再度の検査でレーザー手術を受け翌日退院しましたが、手術後の組織検査で「子宮頸癌ですから、子宮を全摘出します。どのくらい進行しているかは、開腹してみないと判りませんが」とのこと、衝撃を受け呆然としてしまいました。平成21年11月に手術を受け、一週間で抜糸も済み、退院のおかげを頂きました。

手術後の組織検査は、骨にまで癌が浸潤していたため、抗癌剤治療を受けることになりました。その後腹痛が治まらず、MRI検査の結果、リンパ腫と判明しました。

「神人の道」を 一人ひとりの生活に

平成24年1月1日をもって、『神人あいやかけよの生活運動』が発足しました。

この「運動」の願いとするとところは、立教百五十年（平成21年）のお年柄に教主金光様がお示し下さった「神人の道」の思し召しを頂き、私達信奉者が「神人あいやかけよの生活」を求め現していくことで、現代に生きる一人ひとりの生活に、神と人との関係を再構築していくことです。

教主金光様は、人間関係に悩むある信奉者に、「縦軸は神様と人、横軸は人と人とがつながっています」とご理解されました。「縦軸」である神様と自分との関係を深め、その中身をもって「横軸」である人間関係や生活上の諸問題に取り組んでいくところに、この道の「助かり」の世界が開かれてくるのです。

この度の「運動」では、「縦軸」を見失ってしまった現代社会にあつて、私達一人ひとりが、御取次を願い、頂くことをとおして、神様と自分との間柄を深め、それぞれの生活に「神も助かり、氏子も立ち行き」と神様が仰せられる「神人の道」を現していくことを目指して、次のように「運動」の「願い」を掲げています。

願 い

御取次を願い 頂き
神のおかげにめざめ
お礼と喜びの生活をすすめ
神心となつて 人を祈り 助け 導き
神人の道を現そう

この「運動」は、教祖様に始まるこの道の信心と助かりの筋道を、要点的に表現したものです。この道は、生神金光大神取次の道であり、どこまでも「御取次を願い頂き」ということが基本となります。また、「神のおかげにめざめ」とは、天地金乃神様のおかげの世界に、目覚めるということです。

御取次を願い、頂いて、天地金乃神様のおかげの世界に目覚めるところから、「お礼と喜びの生活」が始まり、そのことが進められていけば、「縦軸」である神様と自分との間柄が次第に深められていきます。

そして、「お礼と喜びの生活をすすめ」る中で、「神心となつて 人を祈り 助け 導き」という信心実践に取り組めば、周囲に「助かり」の世界が生まれてきます。それが、そのまま現代社会に「神人の道」を現すこととなります。

（生活運動パンフレットより抜粋）

抗癌剤の治療は間隔を空けて6回行います。12月の末に初回の投与を受け、ここから本当の苦しみが始まりました。年が明けてシヤワーを浴びた時に、カツラができるほどの髪の毛が抜けました。1月半ばに2回目の投与を受けた次の日から、手足が痺れ始めました。3回目は自分の身体をコントロールできずに、吐き気もあり、寝ても起きても、ただ生きているだけの感じでした。そして4月9日にやっと6回の治療が終わりました。涙がこぼれました。それからは定期的に検査を受けています。今も足の痺れが酷く歩くのもやっとなです。一生治らなかつたらと考えると、とても辛くて自然に涙が出てしまいます。

幼い頃から両親と教会にお参りし、手を合わせる事が毎日の生活の始まりで、何十年も両親共々お世話になっていました。昨年、11月5日に母が死去しました。今年2月に、根府川にある教会墓地に埋骨して頂きました。大変お世話になりましたことを有難く、母が一番喜んでいれることと思えます。

振り返って考えますと、大きな病気になり、足や手の痺れなど障害はいろいろありますが、今日も元気に過ごしているのは、金光様に助けて頂いているからと思っています。病気に負けない強い心を持てますように、頑張っていこうと思えます。足の痺れが治ることをお願いして、助かりを蒙りたいと願っています。

「女性のついで」開かれる

東北の震災以来、これまで当たり前前と思われていたことは当たり前ではないという言葉をよく耳にする。今回の女性のついでも、ご都合お繰り合わせをいただいで有意義な会をと祈っていた。それがです。このところ電車のトラブルが多いのでいくらか早めに出掛けた。駅に着くなり、車内のトラブルで全ての電車の運行を見合わせているという放送が矢継ぎ早に流されていた。何とそのトラブルというのは、刃物を持った男が暴れていて、鉄道警察が確保に努めているという。2度ドキッとさせられたのだが、後でその車両に参加者の一人が乗り合わせていたことを知り、またまたびっくりさせられたのだ。みんなどうしてよいか分からず身をすくめていたが、その方は、側に居た若い女性があまりの恐さに震えていたので、そつと離れた所まで誘導された。それもすごい。その後、乗客に被害もなくお騒がせ男も確保され、20分遅れで運転も再開し、女性のついでも予定通り運ばせてもらうことができたのである。ショッキングなスタートではあったが、今回は子供連れや親子での参加、また未信奉者も加わって、総勢10教会45名が7月5日(木)、武蔵小杉教会に参集し研修をさせていただいた。

まず、武蔵小杉教会の岩門信子さんが「信心して安心の暮らしを」と題して、教会へ参拝するようになったきっかけから仕事のこと、信心継承のことなどをお話しくださ

った。岩門さんが体調を崩し入院手術をし、その後、子供達のために必死で頑張っていた時、ご近所の話を聞いてくれたり助けてくれた方が、熱心な金光教の信者さんだったことからお参りされるようになった。その後、山あり谷ありであったが、接する人に親切をモットーに、30年間、保険の仕事をし、娘さんや息子さんの結婚式や出産など、その度にお取次をいただき、願いのままにお蔭をいただいでいるというお話を伺わせていただいた。お取次をし、神様を信じていけば必ずお蔭をいただくという確信のようなものがひしひしと伝わってくるようであった。その岩門さんの娘さんもお子さんをおんぶして参加され、出産を体験して、改めてお母さん、また全てのお母さんに感謝すると述べられ、家族で信心されていることをうらやましくもいいものだなあと思わせられた。

その後、全員が自分の信心を自分の言葉で語ってくださり、心満たされ、それぞれ帰途に就いた。次回を楽しみにしつつ。

(報告 吉岡裕子)

☆神奈川山梨布教 120年記念集会

日時：9月8日(土)
13時 開場

会場：鎌倉芸術館

内容：講演(講師一那
覇教会長 林先生)
教会紹介スライド、吉備舞

※詳細はチラシで。

多くの皆様のご参加
をお待ちしています。

〈な・が・れ〉

「御本部参拝を通じ」

横浜西教会 坂下智子

今年には子供達を連れて横浜西の皆さんと一緒に金光教少年少女全国大会に参加させて戴くこととなりました。五歳六歳の年子の子供達を連れての参加ですが、体調を崩したり、参加中大騒ぎして皆さんに御迷惑をおかけしないか正直心配でした。でも、教会の先生はじめ、色々な方がお声をかけて戴き、後は神様をお願いし、無事参加させて戴こうと思います。

実は一昨年にも子供達を連れて全国大会に参加させて戴きましたが、今より子供達も小さく、体調を崩さないかとても心配でした。しかし、当日まで子供達は風邪も引かず、参拝中も元気に沢山の行事に参加させて戴きました。また、御本部参拝後も人一倍健康のおかげを戴いたのだと感じております。それには教会の先生の祈りがあつたからではないか、とも感じております。

今年には子供達も参加する事を理解できるようにになりました。全国大会参加を通して子供達にも神様を感じてもらえるよう、また親子共々神様に喜んでいただける人へと成長していけるよう話が出来たらと思っております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内